

ハイクオリティやまなし 農業

■問い合わせ先 農政総務課 TEL 055-223-1583

山梨県の農業は、変化に富んだ自然や大消費地の東京圏に近い有利な立地条件を生かしながら、農業者のたゆまぬ努力と高度な生産技術の確立などにより、果樹、野菜、畜産、水稲、花きなどの特色ある産地を形成しています。

中でも果樹は農業生産額の約6割を占め、ブドウ、モモ、スモモは全国一の生産量を誇っています。

さらに、甲州牛や甲州富士桜ボークなどのブランド食肉の認知度向上や、日本で初めてキングサーモンとニジマスを交配させて誕生した「富士の介」など農畜水産物のブランド化を推進し、本県農畜水産物の高付加価値化に取り組んでいます。

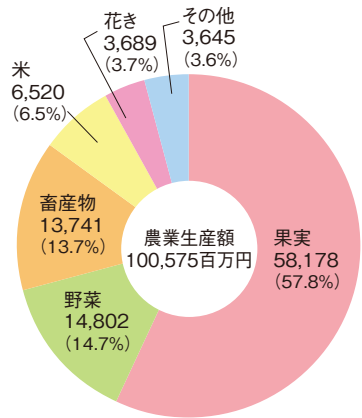


「天空の棚田」撮影場所：南アルプス市
(第15回やまなし農村風景写真コンクール 山梨県知事賞作品)



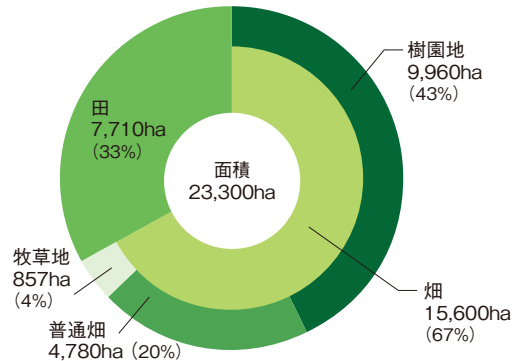
「家族の花つみ」撮影場所：笛吹市
(第15回やまなし農村風景写真コンクール 豊かさ実感賞作品)

■農業生産額(令和2年) (単位：百万円)



資料：令和2年農業及び水産業生産額実績 (山梨県農政部)

■耕地面積(令和3年7月15日現在)



資料：耕地及び作付面積統計 (農林水産省)
(統計表の基準により四捨五入したため、計と内訳は一致しない。)

おいしい未来へ やまなし

本県は良質な水や長い日照時間、豊かな土壌に恵まれており、高品質な農畜水産物を多く生産しています。近年は高品質だけでなく、4パーミル・イニシアチブやアニマルウェルフェアなど、農業分野から持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた取り組みや、食の安全安心のための取り組みなど、おいしさの先を行く県産農畜水産物の魅力を消費者目線に伝えるため、県独自のブランド「おいしい未来へ やまなし」を立ち上げました。ブランドの基準を満たす農畜水産物には、山梨を象徴する富士山に、未来の輝きを表す星の形をかたどったロゴマークが使用されています。

今後も生産者の所得向上や国内消費、海外輸出のさらなる拡大に向け、この新ブランドのプロモーション活動を積極的に実施し、山梨の付加価値の高い農畜水産物を発信していきます。



富士の介やジビエ、
県産野菜などで作った料理



おいしい未来へ
やまなし

「おいしい未来へ やまなし」
のロゴマーク

スマート農業

農業が持続的な産業として発展するためには、ICTなどの活用が不可欠です。県が参画したコンソーシアムでは、限られた場所で使用する第5世代の移动通信システム(ローカル5G)を使い、ベテラン農家の技術を学習したAIからの摘粒などの指示をスマートグラスに伝えることで、新規就農者や雇用者などが熟練の技術を効率的に習得できるシステムを開発しました。また、ブドウや野菜などの生育環境をセンサーで感知し、高品質・多収要因を解析することで、生産性の飛躍的向上を目指す「データ農業」の技術開発を推進していきます。



スマートグラスを使ったブドウの作業

4パーミル・イニシアチブ

土壌に炭素を貯留することで、大気中の二酸化炭素濃度を低減し、地球温暖化を抑制する国際的な取り組みである「4パーミル・イニシアチブ」に、本県は令和2年4月から日本の地方自治体として初めて参加しています。本県の主要農作物であるブドウやモモなどの果樹の剪定枝を炭化し、土壌に貯留することで、二酸化炭素の抑制に貢献することができます。また、この取り組みにより生産された果実を環境に配慮した農産物として認証することでブランド化を図り、農産物の高付加価値化を目指しています。



ブドウの剪定枝からできたバイオ炭「4パーミル・イニシアチブ」のロゴマーク

アニマルウェルフェア

アニマルウェルフェアとは「動物福祉」「家畜福祉」とも訳され、鶏を地面に放して飼う平飼いや牛の放牧など、家畜の快適性に配慮した飼養管理を行うことです。県では認証制度を全国に先駆けて創設しました。講習会の受講などにより知識を習得した上で、家畜の飼育面積や環境などの基準を満たす実践農場をそれぞれの達成度に応じた3段階で認証します。その段階に応じたロゴマークを付与していることから、新たな価値の付いたブランド畜産物を消費者が選びやすくなっています。



快適性に配慮した飼養管理「アニマルウェルフェア」のロゴマーク

水

■問い合わせ先 自然共生推進課 TEL 055-223-1634

山梨県は、富士山をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父などの山々に囲まれ、山に降る雨や雪が森林を潤しながら伏流水となり「天然の水がめ」と呼ばれるほど豊富な水をたたえています。

こうした豊かな自然や良質な水は、生産量日本一を誇るミネラルウォーターをはじめ、ブドウやモモなどの美味しい果物や日本酒、富士の介などの養殖魚、長い歴史を持つ織物や手すき和紙などのさまざまな特産品を育むとともに、多様な泉質を持つ温泉や「名水百選」などに選ばれる湧水、渓谷等の観光地としての魅力を創出するなど、多くの恵みがもたらされています。



西沢渓谷七ツ釜五段の滝（山梨市）



手すき和紙工芸には豊かで良質な水が必要



西山温泉（早川町）

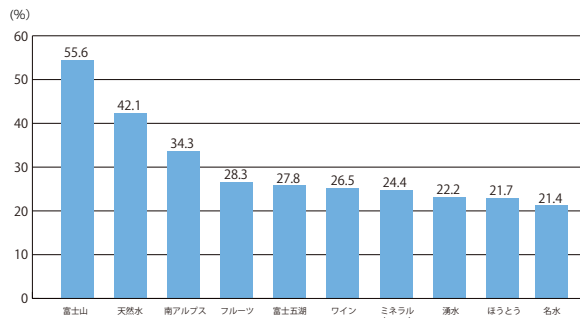


ブランドを推進するポスター

天に選ばれし、名水の地。山梨。

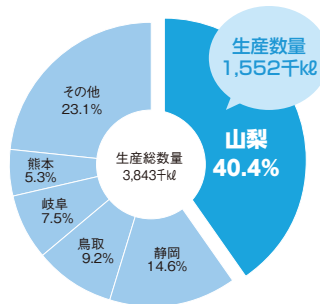
県では、健全な水循環を守り育てる「育水」という考えのもと、民間企業や団体などと連携しながら、豊かで良質な水を将来にわたって保全するとともに「名水の地 やまなし」で育まれる豊富な地域資源（観光資源、県産品、自然環境、歴史文化など）と融合し、その魅力を国内外に情報発信するなど、山梨の「水」のブランド力、さらには本県のブランド力向上を目指しています。

■「山梨の水」と聞いてイメージするもの



資料：令和3年度やまなしの「水」に関する意識調査結果（上位10位）※複数回答あり

■ミネラルウォーター都道府県別生産数量（令和2年）



資料：日本ミネラルウォーター協会統計資料（端数処理により内訳の合計は100%にならない）

林業

■問い合わせ先 林政総務課 TEL 055-223-1642

山梨県は、県土の約78%を森林が占める全国有数の森林県です。このうち、森林面積の約44%を占める人工林の多くが大きく成長し、木材として利用可能な時期を迎える中、ICT等の先端技術を活用し、森林施業の生産性・安全性を向上させるスマート林業の推進や公共建築物等への積極的な県産材の利用などを通じて「伐って、使って、植える」という森林資源の循環利用に取り組んでいます。

また、森林環境税などを活用し、荒廃した民有林の間伐を行うなど、山地災害の防止や水源の涵養、地球温暖化の防止といった森林の有する公益的機能が将来にわたって発揮されるための取り組みのほか、キノコ類やタケノコ、ワサビなど特有用林産物の産地化を推進しています。



手入れが行き届いた人工林



山梨オリジナルの特有用林産物 山梨夏つきのこ

FSC® 森林管理認証

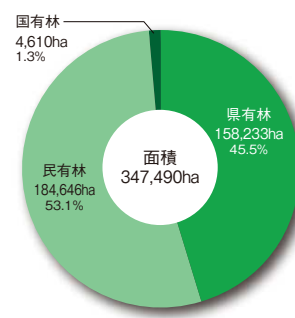
県有林は、公有林としては全国に先駆け FSC 森林管理認証を取得しています。この認証は、県有林が環境、社会、経済の各分野において国際的な基準に従って適切に管理されていることを証明するものです。

認証面積は 14 万 3 千ヘクタールで国内認証の約 3 分の 1 を占め、全国 1 位。その豊かな森林資源から生産された木材は FSC 認証材として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック関連施設や公共建築物、その他さまざまな商品に活用されています。



国立競技場スタンド 観客席を覆う大屋根に県産 FSC 認証材（カラマツ）を使用（提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター）

■所有形態別森林面積



資料：R3 山梨県林業統計書（統計表の基準により四捨五入したため、計と内訳は一致しない）

■森林面積と森林比率

山梨	
総面積	446,527ha
森林面積	347,490ha
森林比率	77.8%

資料：R3山梨県林業統計書

■人工林面積と人工林比率

山梨	
森林面積	347,490ha
人工林面積	153,259ha
人工林比率	44.1%

資料：R3 山梨県林業統計書

観光

■問い合わせ先 観光文化政策課 TEL 055-223-1556

山梨県は、豊かな自然環境、先人たちが積み重ねてきた歴史や文化、四季の特徴が際立つ気候、風土の恵みである食といった、観光地として必要な要素を高いレベルで兼ね備えています。本県が魅力的な地として観光客から選ばれ満足してもらえるよう、これらの地域資源を活用するとともに、これまで観光に活用されてこなかった新たな地域資源を掘り起こし、磨きをかけ、光を当てる取り組みを進めています。また、観光客が訪れることで、地域社会が活性化し、観光事業者にとっても働く魅力が向上するよう、観光産業の高付加価値化を推進しています。



ワイン、食、温泉、グランピングなど、山梨ならではの観光コンテンツが充実

美食王国やまなし 美味しいものを食べに山梨に行こう

本県は約150年続くワイン造りの歴史と伝統があり、今もなお日本ワイン生産量、ワイナリー数ともに日本一を誇る「ワイン県」です。ワイン県宣言をきっかけに、ワインを通じた周遊観光や地場産業の活性化を図るべく取り組んできました。中でもワインとの相性が良い「食」は重要であり、県産の高品質な食材を活用したり掘り起こしたりしながら、ワインと食の相乗効果により、食事が旅行の目的となる「美食王国やまなし」を目指しています。

ワインに合う食材として本県のブランド魚「富士の介」や天然資源のニホンジカを食材として有効活用する「やまなしジビエ」などがあります。また、その他にも伝統野菜や新品種のフルーツなど、本県には豊富な食材があります。本県で活躍するシェフなどがメニューづくりに取り組む「美食コンソーシアム」と連携しながら、これらの県産食材を使った新しい食文化を創造し「美食王国やまなし」の実現を目指していきます。



県産食材を使ったメニューを開発

マース やまなし観光 MaaS

複数の公共交通や移動サービス、観光施設などを最適に組み合わせ、スマートフォンでルート検索から施設・体験などの予約・決済までを一括で行う「やまなし観光 MaaS」。この県内展開を目指し、昨年11月に最新小型モビリティ「PiiMo」による国内初となる公道走行などの実証事業を、甲府市の昇仙峡などをはじめとする観光地で行いました。

今後、県内全域への展開などサービスの充実に向け、民間事業者を中心に市町村や観光団体とも連携しながら、新たな観光を体験できる地として本県が選ばれるよう、体制を整えていきます。



最新小型モビリティ「PiiMo」

やまなし自然サウナととのいプロジェクト

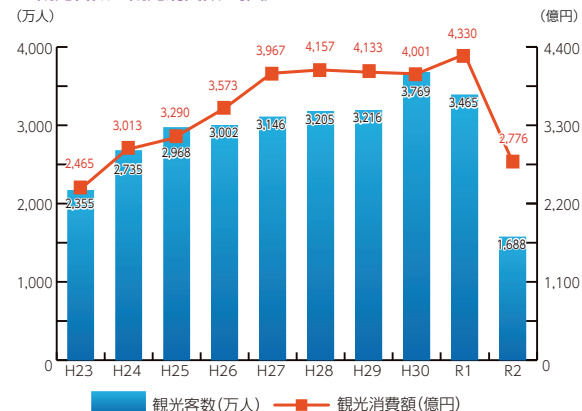
名水の地である本県は、上質な水質を誇っています。そこで、テント型のサウナを設置し、自然の中でサウナを楽しむアウトアサウナを新たな観光資源とすべく「やまなし自然サウナととのいプロジェクト」を立ち上げました。県の若手職員と、県内でアウトドア関連事業を行う事業者が連携し、観光資源への磨き上げと情報発信を行っていきます。

県内のキャンプ場などでは、このプロジェクトに合わせて環境整備やイベントを行うなど、山梨県をアウトアサウナの聖地とすべく、全県で取り組んでいます。



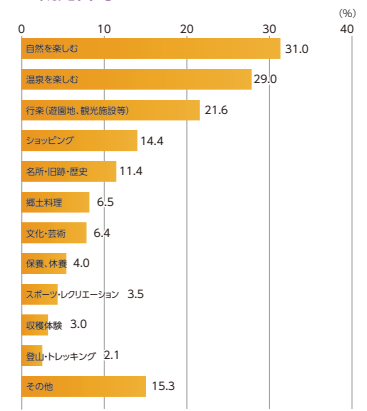
自然の中のサウナで「ととのい」を体験

■観光客数・観光消費額の推移



資料：令和2年山梨県観光入込客統計調査

■観光目的



資料：令和2年山梨県観光入込客統計調査

地場産業

■問い合わせ先 地場産業について 産業振興課 TEL055-223-8871

山梨県には、古くから続く伝統的な地場産業が数多くあります。中でも、世界から評価を受けているワイン、豊富で上質な水で仕込む日本酒、高度な技術で美術品の域に高められている水晶細工、千年以上の歴史を誇る産地で作られる織物、そして風土と暮らしの中で受け継がれてきた印章や印伝といった工芸品などが有名です。雄大な自然と歴史の中で思いを込め、時間をかけて丁寧に仕上げるつくり手が、本県の地場産業を支えています。

美酒美県やまなし

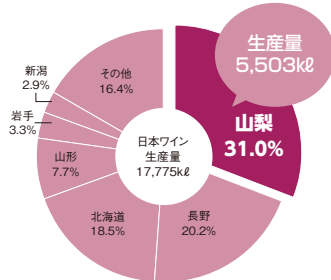
お酒の地理的表示 (GI) は、地域の気候や風土、伝統的な製法などを生かして、品質にこだわって生産に取り組んでいる産地を国が指定する制度です。平成 25 年に全国で初めてワインで GI「山梨」が指定され、令和 3 年には日本酒でも GI「山梨」が指定されました。同じ県から2つの酒類で GI が誕生するのも全国初です。これを受け県では、おいしいお酒は美しい自然が育てる「美酒美県やまなし」と銘打ち、本県が誇る美しい自然と匠の技から生み出される高品質な日本酒・ワインを国内外に向けて PR しています。



「美酒美県やまなし」として日本酒とワインを PR



■日本ワイン生産量の全国シェア (令和元年度) *日本国内で製造されたブドウを 100% 使用して国内で醸造されたワイン



資料：酒類製造業及び酒類卸売業の概況



先端産業

■問い合わせ先
 メディカル・デバイス・コリドー、燃料電池について 成長産業推進課 TEL055-223-1565
 P2Gシステムについて 新エネルギーシステム推進室 TEL055-234-5268
 オープンプラットフォーム山梨について リニア未来創造・推進課 TEL055-223-1363

本県の機械電子産業の優れた技術蓄積を生かしながら、新たな技術などを取り入れ、今後成長が見込まれる医療や健康に関連した産業、次世代のエネルギーを生み出す産業などの立地、集積が進んでいます。また、リニア中央新幹線の開業により、東京圏や中京圏とのアクセスが飛躍的に向上し、劇的な時間短縮が見込まれます。このチャンスをつかみ取り、本県の発展につなげていくための基本戦略として「リニアやまなしビジョン」を策定し、テストベッドを突破口に最先端技術で未来を創るオープンプラットフォーム山梨の実現に向けて挑戦しています。

メディカル・デバイス・コリドー

本県の主力産業である機械電子産業の高い技術力や立地特性を生かして、今後も成長が期待される医療機器関連分野を新たに本県をけん引する産業に育て、甲府盆地から静岡県東部の医療産業集積地「ファルマバレー」までを結ぶ一帯に医療機器関連産業を集積する「メディカル・デバイス・コリドー」の実現を目指しています。実現に向け、甲府市に開設した専門支援機関「メディカル・デバイス・コリドー推進センター」では研究開発に加え、部品・材料供給による参入支援の展開やスタートアップ企業の育成、医学部を擁する山梨大学と連携した専門人材の育成などに取り組んでいます。



やまなし水素・燃料電池関連産業

県では、太陽光発電などの再生可能エネルギーの電力を使い水からグリーン水素を製造するパワー・ツー・ガス (P2G) システムの開発に、民間企業と共同して取り組んでいます。グリーン水素は、P2G システムによって水を電気分解して造られ、燃やしても二酸化炭素を排出しないことから、脱炭素社会の実現に向けた究極のエネルギーとして注目を集めています。甲府市の米倉山には P2G システムのほか、水素・燃料電池の研究・開発施設が高度に集積しています。これを「米倉山電力貯蔵技術研究サイト」として整備し、水素エネルギーや蓄電システムに関する最先端の研究開発の実証実験を行うとともに、研究事業の誘致を一層推進させるべく取り組んでいます。その他、山梨大学燃料電池ナノ材料研究センターをはじめとした世界トップレベルの水素・燃料電池関連の研究開発拠点が県内に集積しており、その強みを生かし、県内企業の製品開発や部材供給による参入支援、専門人材の育成にも取り組んでいます。



オープンプラットフォーム山梨

スタートアップ企業などが持つ最先端技術や新たなサービスにより、本県の抱える地域課題の解決を図るため、本県をフィールドに実施する実証実験を全面的にサポートする「TRY! YAMANASHI! 実証実験サポート事業」を行っています。地域特性を生かした実証実験が盛んに行われる環境づくりを進め、未来を切り拓く起業家などの交流による好循環を生み出すことで、新たな産業の創出や関連産業の集積を図り、雇用の拡大や県内経済の活性化につなげていきます。

